

No.520

皆さんの投稿でつくられる情報紙

なかま



発行 佐倉市立中央公民館
 編集 なかま編集委員会
 (佐倉市民カレッジ生と卒業生で構成)
 〒 285-0025
 佐倉市 錦木町 198-3
 電話 (043) 485-1801
 FAX (043) 485-1803
 メールアドレス
 chuo-public@city.sakura.lg.jp

なかまに感謝!

岡野 哲 (王子台)

古希の前年の昨年、介護認定を受けた。私は重症の緑内障患者である。見える景色はほんの一部を除いて霧の中にある。段差が見えないので階段や交差点では神経をすり減らす。距離感もあやしいので人込みは苦手だ。

薬物治療はもう限界と宣告され、一昨年6月に手術を受け十日



間入院した。退院後病院の紹介で緑内障の患者の会に入会、自分がこの病気に主体的に向き合つてなかつたと気づく。以前のように動き回れず、生きがいだった石仏の調査や案内もダメかと気分が落ち込む。7月下旬しづ市民大学に復帰、同級生が道の端から落ちそうなのを助けてくれる。11月

市民音楽ホールで市民カレッジコーラスの歌声に涙、休会していたコーラスに復帰、指導の先生や団員から耳があるから大丈夫だよと激励を受ける。あきらめていた市民カレッジ21期生の定例ウォーキングにも参加、「仲間なのだから遠慮せず甘えなよ」と云われ心が軽くなる。周囲に迷惑をかけまいと思っていた私には有難い言葉だった。石仏調査の仲間も階段の下りや交差点などで支え

佐倉市民カレッジ入学生

4月9日から願書受付開始

4年制の佐倉市民カレッジは、人生を豊かにする「学び」と「仲間」づくりの場です。令和2年度入学生の願書受付期間は4月9日(木)から16日(木)です。

願書は市内公民館、図書館に配架しております。郵送を希望の方は中央公民館へ電話でご連絡ください。

てくれる。なかまは皆人生のベテラン、介護も手慣れている。

緑内障は不治の病だ。失ったものも大きい。杖を突きながらの散歩道、野の花の香りや鳥のさえずりが感性を目覚めさせてくれる。今思うのは、素晴らしい仲間にも恵まれたことに感謝の気持ちだ。おっと、我が家の「山ノ神」も忘れてはなるまい。「ああ、ありがたや、ありがたや」。

前向きのお爺ちゃん

今、人生は百年時代と言われている。ひと昔まえでは考えられないことだった。

彼は数年前に大病を患い運よく命拾いして助かった。しかし、年のせいで思ったほど体力が回復しなかった。街をさっそうと往く人が実にうらやましい。自分は今世間から忘れられるかも。人は独りでは生きていけない。自分の殻に閉じこもらないようにしていく。この思いが彼の頭のどこかにあったに違いない。

ところで、彼にはボランテアの経験があった。この経験が何かの役に立つのではないか。これを活用し地域社会の役に立ちたい。この考えが日増しに強くなってきた。

おりも折り、令和が幕あけて彼は節目の傘寿を迎える事となった。これをきっかけに、もう一度

ボランテアに参加し頭を使っ

て身体を動かし人と交わる。これこそが人生百年へのもとなる。

それには知恵と体力が必要になってくる。

彼は、新聞を始めから終わりで、くまなく目を通すようにした。きちつと社会の話題を押さえたいから。

その一方、近くのスポーツジムに通い体を動かしている。彼は、はじめに身体をほぐしてから、足腰を丈夫にする筋トレを行っている。その周りには年をとった人が汗をかき姿があった。

今では、少しだが体力がつきスタミナも戻った気がする。彼は、これからも無理のない範囲で、体力の回復に努めていくことにしている。

お年寄りも、もうろくして引きこもりにならないこと。これが長生きにつながるかと、彼はつくづく思った。

(ユーカリが丘 廣吉 正毅)

アルミのなべ

我が家での昼食。グツグツと麵を茹でているアルミの鍋。直径20センチのこの万能なべ、実はもう54年間も使っている。その間穴があいたりもしなかった。私が入り代りしをしていた。私がアパート暮らしをしていた。身時代の物で、今だに現役のバリバリなのだ。

年代物と言ってしまうとそれ迄だが、その頃のものづくりは職人の意地、誇り、粋が乗り移っており、「どうぞ丁寧に使ってください」との無言だがハッキリとした伝言がこめられていた。日本の誇れる品質と業がその証だ。

何千倍も便利になった今の時代。もう少し、いやもっと節約になるであろう物が計り知れない。携帯電話の充電器。携帯を買いかえる毎に別なものがついてくる。概してズッシリ重いばかり

りか保管にも苦勞する。エアコンやTVのリモコンも同様、それに皆使い捨てだ。

AIの時代となり更に多様化してゆく物や機械。あのアルミの鍋の再現はないにしても細く永く形を残していける物をつくる技術を使わない手はないはず。自動運転や、はるか宇宙の探査に向けるホンの一部分をものづくりを生かして欲しかったものだ。ロボットが運動会を仕切っても結構。ヒトは良品創りに励んでいければ良いのですから…。

(上志津 島崎 庄平)



下駄屋のおじさん

「電車の旅」というテレビ番組を見ていました。これは沿線の旧跡や土地の人などを尋ねる番組です。

その日は、京王線だったので、興味深く見ていました。京王線は、私が調布に嫁いだから、ずっと利用していた鉄道ですから。新宿駅を出発して、いくつかの駅をすぎ、西調布駅を訪ねました。

街の中を散策して、ある男の顔をインタビューしていました。その顔を見て「あつ、下駄屋のおじさんだ」と叫んでしまいました。そうです。甲州街道沿いに小さな下駄屋があつて、こまめに働いていた、あのおじさんだったので。少し年をとられた感じでしたが、昔のままの四角い顔、いまでも元気でいられたのだと、嬉しくなりました。「おじさん万歳」。そして今年で百歳とか。現在は子供

達に将棋教室を開いているそうで、何と立派なことでしょう。四、五十年前のなつかしい街並みと人々、忘れかけてゆく昔を思い出して、いつしか、涙があふれていました。

(稲荷台 林 久子)



警視庁、拾得物届出に悲鳴

警視庁は、拾得物の届け出受理に大苦戦しているようだ。

届け出は、年間、何と380万件もあり、記録を更新中とのこと。最も多い届け物は梅雨時の電車の中の忘れ雨傘。紛失の届けを出すよりも「たかが、傘くらい」と考えてか、照会者はまず居らず、文京区にある警視庁の遺失物

筆の向く儘まま

ある日のこと、兼ねてから思いを寄せている女性にバツタリ会った。こういう文章を書くところ「あの方高齢なのに、よくこんな文章を書くね」と、陰口を叩かれるかも知れないが…。

会話が始まり、何げない話題であるが考えが一致した。草花に興味を持ち、私より凡

保管センターは傘を主体に溢れかえっている、とのことだ。

遺失物担当部署には、他には犬、猫、インコ、亀や珍しいものでは「お骨」までも。

お骨を捨てれば死体遺棄罪にあたる可能性もあるため、経緯を詳しく調べる必要がある。だが、事件性が無ければ持ち主不明のまま、自治体の無縁墓地に納骨しているとのことだ。

(井野 田中 修司)

そ五歳位年下だ。もしかして相性が良いのではないか、希望的観測だが占ってみたい。

でも、これが表沙汰になったらどうしよう。人は噂が好きだ。『なかま』に投稿して、掲載されること自体、読者の皆さんの目に触れ、話のネタになる？

それに特に女性は「嫉妬心」が強い、と聞く。

他人に恋心を抱くのは、若い人に限ったことではない。独身者でなく既婚者でも、何もしなくても、二人だけで歩いていても変な噂を立てられることもある。恐ろしい世の中になってほしくない…。

様々な情報が蔓延する世の中に、敢えて一言。

でも、「良い」と思った情報はどんどん流してくださいね。

(石川 斎藤 たかし)



年賀状雑感

現役時代には朝早くから夜遅くまで仕事に追われた生活でしたので、年末が近づくとも百数十枚の年賀状をすべて手書きで書くのに気が重く、数日かけて書くのも苦痛でした。

仕事から離れて30年も経ちますと、あの人、この人、あちらこちらでも学友、知人、旧同僚が足早に他界してしまい、年賀状の枚数も激減してしまいました。

毎年、年賀状の季節になりますとあれこれと是非の話が蒸し返されますが、出すほうも出さないほうもそれぞれ一理あり良し悪しの問題ではありません。パソコンの利用もかなり前から年賀状問題を劇的に変えています。

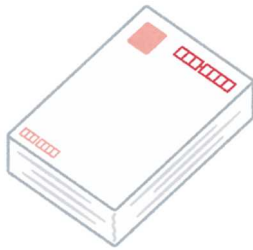
手書きのほうが気持ち伝わりやすいとは言ってもパソコンなら百枚でも二百枚でもあつという間

に印刷が可能でパソコン派が圧倒的に多数となっています。

パソコン作成の文面に一言書き足す例が多いようです。個人の考えとしては、年賀状は、一年に一度の節目に命と命が一瞬触れ合う「貴重な三秒間」だと感じています。この地球上で蜘蛛の糸一本の繋がりとはいえ近況などを知り、心癒され素直になり笑みが浮かぶ瞬間です。

元気な方もおり、足腰に悩みを抱えている方もいるなど生活状況はさまざまですが、元気に生き続けてくださいねと私はいつも無言の声援を送りながら年賀状を拝読しています。

(大蛇町 塚原 謙二)



編集委員エッセイ

佐倉の公園

最近、テレビでよくクイズ番組をみる。ある番組で公園の数が一番多い都道府県が東京都であることを初めて知った。東京都には約8300箇所あるとのこと。狭い東京でこんなに多くの公園があることに驚きを感じ、ちよつと公園のことを調べてみることにした。千葉県には約7100箇所あり第4位、我が佐倉市には290箇所(136・67ha)あるとのこと。市民一人当たりの面積は約8・76㎡である。(平成31年3月末現在)

公園は都市公園として次のように分類されている。歴史公園(佐倉城址公園等)、運動公園(長嶋茂雄記念球場がある岩名運動公園)、総合公園(上座総合公園)、近隣公園、地区公園、街区公園、風致公園で、街区公園が一

番小さいが一番多くある(273箇所)。

市長はオリンピック、パラリンピックが開催されるのを機に、市民が楽しく集い仲間と共に関心を持って健康でいられるまち作りをしたいとのこと。散歩、スポーツ等、雨の日以外によく利用している私にとって嬉しい方針である。四季折々、公園の空間を味わい、健康を意識しながらの利用を楽しみにしている。(柳生 智)

『なかま』の投稿記事募集

日常で気付いたことなどを「随意にお書きいただきお送りください(送付先は1ページ右上参照)。字数は590字(14字×42行)程度です。掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます(ご迷惑をさす)。